

目 次

- ☆会長・副会長 新年の挨拶
- ☆シルバーの動き
- ☆安全就業について
- ☆普及啓発事業について
- ☆会員の皆様へのお知らせ
- ☆編集後記

シルバー大島

NO.2 - 2 (94)

■ 編集発行

(公社)大島町シルバー人材センター

〒100-0101 大島町元町字地の岡30-2
郷土資料館内

TEL 04992(2) 1777

FAX 04992(2) 1776

泉津港からの朝日

写真提供: 浜田 良(会員)

新年の挨拶



公益社団法人
大島町シルバー人材センター
代表理事 会長 土井 実

新年あけましておめでとございます。
皆様にはお健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、ダイヤモンドプリンス号での新型コロナウイルス発生のニュースに始まり、2月末から小中学校は臨時休校、緊急事態宣言の発令、イベントの中止、オリンピックの1年延期と目まぐるしい年でした。学校や企業、シルバー人材センターでも新しい生活様式が求められる中、会員の皆様には新型コロナウイルス感染予防対策を徹底したうえで、多種の就業ボランティア、ゲートボール等のスポーツ、会員による作品展等の文化活動等、広く地域への貢献とご活躍をされました。誠に有難うございました。

また、大島町、東京都をはじめ各種団体、関係各位にはシルバー人材センター事業の遂行に多大な

るご支援とご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

今、我が国の急速な高齢化が進行する中で、シルバー人材センター事業は内外から大きな注目と期待を受けています。こうした世間からの期待に応えていくためには、シルバー人材センターが高齢者の活躍の場として機能し、地域社会に貢献していることを今まで以上に目に見える形で示していく必要があります。

まずは、何よりも会員の拡大が重要であります。様々な経験、技能を有する多様な人材が集結し新たな職域に活躍の場が広がり、至るところで会員が活躍する場面に会おうようになることです。生き生き活躍する会員の姿に魅力を感じて、自分もシルバー人材センターに入会したいと思う高齢者が増えていく。このように会員が増えることで就業先が拡大し更なる会

員増という好循環の実現をめざし、これまで以上に喜ばれ、愛され、親しまれるシルバー人材センターの事業発展のため微力ではありますが努めてまいります。

私たちは今、困難な状況にありますが、みなで力を合わせてピ

新年の挨拶

代表理事 副会長 秋田保英



あけましておめでとございます。皆様におかれましてはお健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年はコロナ感染症の流行により大島の多くのイベントが中止となりました。

幸いにも当センターのゲートボール大会、会員の作品展は万全の感染症予防対策をして開催され、皆さんが楽しまれ終えることが出来ました。しかし年末にはコロナ感染症が全国的に急増し、新聞や

ンチをチャンスに変えてこの難局を乗り越えてまいりましょう。

令和三年が、皆様にとって希望に満ちた明るい素晴らし年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。

テレビは毎日トップニュースで報道されました。これからの感染はどうなるか不安となりました。

そんな中GOTOトラベルの割引で来島された観光客が多かったことは新たな心配事です。

会員の皆様は就業中も感染症予防対策の消毒、マスクをつけて就業します、この冬インフルエンザと同時流行が予想されておりますので予防対策は怠りなくしましょう。

令和2年度も残り少なくなりました、事業計画は順調に推移しておりますが課題である会員不足は、入会11名、退会16名(11月末現在)です、会員の皆様紹介の入会が多くなってきました、引き続き仲間を誘ってください。

この先コロナ禍での事業運営となりますが、引き続き会員の皆様のご協力と関係者の皆様のご協力、ご指導よろしくお願い申し上げます。

家



				職	監	監	理	理	理	理	理	理	事務局長	常務理事	副会長	会長
				員	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事	事
青木千鶴子	浜口芳昭	三宮仁	天野知洋	川島和枝	坂本幸三	白井和子	高橋義徳	秋野忠夫	宮原康夫	木村明子	笠間隆夫	壺内栄治	岩田桂子	小薦浩司	秋田保英	土井実

◎その他

安全就業について

東京都のシルバー人材センターにおいて重篤事故が毎年のように発生しています。（死亡事故等）

これらの事故は、特に就業場所への移動途中・帰宅途中での交通事故・転倒事故や植木剪定中の梯子からの落下によるものです。

このため、安全就業の徹底を図るため、会員の皆さまの健康管理への意識を高く持っていたと共、特に自転車での移動を行っている方は、ヘルメットの着用等で重篤事故防止を図っていただき、同時に車の運転についても最近高齢者の事故が社会問題となっていますので、より一層の安全運転に心がけていただくようお願いします。

また、昨年より新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るっているところです。会員

のみなさまには、引き続き「3密を避ける！」等の感染予防を徹底していただき、「うつらない」「うつさない」を念頭に安全就業に心掛けてください。なお、インフルエンザに対する予防についても、予防接種を受け

るなどの対策を取ってください。幸いにも当センターにおいては大きな事故もなく、会員個々の安全に対する意識の高さが伺えます。

引き続き安全への注意徹底を呼び掛けていきますので、皆様の事故防止へのご協力をお願いします。



安全就業パトロール

刈払機講習会を実施しました

東京しごと財団のご協力により、「刈払機作業従事者安全衛生教育講習」を11月16日・17日の2日間、林材業労災防止協会東京支部（林防災）の指導員を講師に招き実施しました。この講習は、刈払機を使用して作業する会員の安全を確保するとともに、振動障害を防止するために必要な知識を習得することを目的とします。

講習内容は、1日目に座学、2日目に実技講習を行い、修了者には修了証が交付されました。（講習修了者14名）



刈払機講習会



刈払機講習会に

参加して



中山 定彦

シルバー人材センター主催、地域提案型の講習を初めて受講し、今まで見たり、聞いたりし、自己流で刈払機の操作を行っていましたが、今回の講習は大変貴重な2日間となりました。

1日目の「学科講義」についてお話しします。

印象に残ったのは、今まで「刈払機の取り扱い」は技術的なことはあまり考えず、簡単な気持ちで作業を行っていたのですが、今回の授業を受けて思ったのですが、「刈払機の取り扱い」は「命に関わる事」、「安全第2」である事を教わりました。

次に1日目の内容についてお話しします。「刈払機の安全装置」の装着について、①飛散防止装置は所定の位置に確実に装着しているか。②緊急離脱装置も所定の位置に確実に装着しているか。③停止スイッチは所定の場所に確実に着いているか。

次に「刈払機の選定」について。今まで受講前は、簡単に考えて機械を使用していましたが、今回の授業を受けて、刈払機の構造や技能を知る事が「安全」に繋がる大切な事である事と知りました。機械の種類については、安全に作業する為に機械の種類は、①一般的に使用される農業や林業に使用されている、「肩掛式刈払機、Uハンドル式」です。②土手の法面や斜面に適している重さも軽く、軽作業に使用されている。

③広大な土地や平地、土手や法面に使用され肩で担ぐ為、両手も自由となり広大な所で使用される「背負式刈払機」である。

次に刈払機のエンジン始動、運転、停止について作業手順の説明を受け、「安全第2」で作業を行う事の説明がありました。

学科の授業について1日目、最後に「刈払の選定」についてとの話がありました。選定にあたっては「JISマーク」の表示刃を使用する事。他「安全規則」「条例」等説明を受けました。

次に2日目は、実技体験について作業指導を受けました。最初に、刈払機の作業動作についての実技指導で、内容は①常に身体バランスの取れた姿勢で作業する事。②常に正しい基本動作で作業する事。

次に実技指導では、刈払機を前進する時基本動作は、前進する時右足から一歩前に出る事。横移動の時、右に移動の時は右足から右側に移動。左に移動の時は、左足から左側に移動する。

次に「作業手順」の説明がありました。内容の説明について。往復作業をする場合、グループ編成を行い各グループで、間隔を空けて作業する。安全第1を考え、1グループ事、15m取る事。次にグループの作業間隔は5m空けて作業する事。

次に「作業に関する知識」「作業計画の作成」「刈刃の鋸断位置」についての説明がありました。刈刃の位置については、安全に切断出来る様、刃の前方左側1/3で作業する事が一番安全に刈れるとの事でした。

次に作業方法について。①「刈幅」については1・5mとする。②刈刃の

往復刈は絶対にしない事。③「障害物」については必ず安全確認する事。

注意事項として安全面を考えた「服装」について、①長袖長ズボンで作業する事。②保護帽をかぶる事。③呼び子を持つ事。④防護靴を履く事。⑤防護手袋を装着する事。⑥防護眼鏡・ゴーグルを付ける事。先生よりこの様な説明がありました。

他にも色々注意事項はありましたが、安全の為に必要で大事な事は、毎日機械器具の点検。長期格納する場合注意事項についての話がありました。

最後に先生が機械点検の実技指導を行ってくれました。長時間でしたが大変貴重な時間でした。この2日間講習を受けた事、これからも安全第1に実践に活かして学んだ事を仕事に活用し、頑張っていきたいと思えます。本当にありがとうございました。



中村 幹男

令和2年11月16日・17日刈払機講習会に参加した。

講習会では、「何故刈払機と呼ぶか」から始まり、構造・機能・選定・エンジン始動と運転、停止等、刈払機を使用する作業に関する知識、振動障害及び予防に関する知識、関係法令等テキストにそって進められた。

難しいことは分かりませんが、刈払機を使用する際の注意点として、安全に作業を進めるには作業に適した服装保護具が必要である。

刈払機の実際の使用については、刈刃は10度傾け草を集めながら行う。

右足は必ず前、右側から左側に刈ること、重心は刈始め右足8左足2、刈

終わりは右足2左足8となるよう刈幅は1・5m程度で刈払った幅だけすり足で進むこと。往復刈り・刈刃でたたく竹ぼうきのように使用しない。刈払いは腰より低い位置で行う。安全に作業を進めるために、作業の打ち合わせをする(作業の仕方・上下作業の禁止・近接作業の禁止・作業から5m以内は危険区域とし、他の作業者を立ち入らせない)。草類を刈払う場合は、刃の前方左側3分の1の部分を対象物に当てるようにする。かん木等を切る場合はキックバックを起こすことのないように刃の前方左側30の部分当ててゆっくりと切り込む。刈払機の事故で多いのはキックバックの事故とのこと。刈払機作業時には、作業者の後方右側からは近寄らない。何か伝えたい時には笛を使用すると良い。

その他、飛散防止カバーは外さない・ずらさない・チップソーの刈刃は、溶接部のチップが取れたもの・ひびの入った刈刃は使用してはならない。刈払機の点検・整備・毎日の点検として、エンジン部の汚れ・エアクリーナーの汚れ・燃料タンクの空気穴の目詰まり等、歯車室周辺の汚れ・ネジ類のゆるみと脱落の有無等行う。

燃料の抜き取りの仕方・歯車室の潤滑等行った。

本講習会での講師の先生の話、テキストの中身非常に良かった。

現在使用している刈払機の取扱説明書を再度読み返し理解が深まりました。ありがとうございました。

テキスト：安全な刈払機作業のポイント(改定初版)
林業・木材製造業労働災害防止協会

普及啓発事業について【会員拡大・就業開拓・地域貢献】

第13回 シルバーカップ・ゲートボール大会開催

秋晴れのもと、町教育委員会・伊豆大島GB協会等関係者の協力により、第13回大会を開催しました。

今年度の大会は、新型コロナウイルスの影響により開催が危ぶまれましたが、理事会並びにGB協会等と慎重に協議した結果、感染予防対策を実施したうえで開催となりました。10月24日(土)

午前8時30分より、島内8地区9チームと大島支庁チーム、今回初参加の七島信用組合チーム、シルバー人材チームの計12チームの参加により、予選リーグ、決勝リーグと白熱したゲームが伊豆大島ゲートボール場で展開されました。

開会式は秋田実行委員長の開会宣言の後、岡田チーム優勝カップ返還、秋田副会長挨拶(会長代理)、来賓の三辻大島町長・鶴川大島支庁

長・木村GB協会長より激励の言葉と三田審判長の競技上の注意、差木地チーム中山選手の選手宣誓に続き、始球式をシルバー副会長・ご来賓の方が行い、予選リーグがスタートしました。岡田・差木地の3チームが進出

し、優勝は「岡田チーム」、準優勝「差木地チーム」、3位「大島支庁チーム」となり、秋田副会長より表彰状と副賞を授与し、参加者全員に参加賞を贈呈、秋田実行委員長の閉会宣言で無事大会を終了しました。

本大会は、大島支庁チームの活躍が目立ち決勝リーグ進出と

第27回目を迎えた恒例の作品展「創」を会員の皆さまの尽力により開催いたしました。



第27回 手づくり作品展「創」開催

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の心配の中、感染予防対策を十分行ったうえで、11月20・21日の2日間、大島町開発総合センター1階大会議室で会員30名の方々が精魂込めた作品(手工芸・生け花・絵画・写真・野菜等)が展示され、会員と地域の方々、2日間延べ約110名が交流のうね熱心に鑑賞され、当センターを普及啓発することが出来ました。



し、優勝は「岡田チーム」、準優勝「差木地チーム」、3位「大島支庁チーム」となり、秋田副会長より表彰状と副賞を授与し、参加者全員に参加賞を贈呈、秋田実行委員長の閉会宣言で無事大会を終了しました。

また、岡田チームと差木地チームは1点を争う戦いとなりましたが、岡田チームが前回大会に続き2連覇となりました。なお、今大会予選リーグで差木地チームがバーフェクトゲームという快挙を達成いたしました。

会員の減少や、コロナ感染拡大の影響により出展作品の減少が懸念されましたが、会員の皆さまのご協力により沢山の作品があり感謝いたします。

また、次回開催に向けて準備いただけるよう宜しくお願いいたします。



会員の皆様へのお知らせ

令和3年度安全就業強化月間を中心とした安全就業の普及・啓発活動の一環として、会員自らが安全就業について考えることで、安全に就業する意識をより一層高め、事故防止に資することを目的として標語の募集をします。

知活動につなげやすく、事故低減の効果も期待できると考えられます。会員個々に対して633件の事故には633人の会員が関わっているという自覚をさらに促すために、危険予知の一層の普及を図り事故低減につなげることを目的としています。

『テーマ1』

「危険予知」

東京都シルバー人材センター連合では、事故件数を減らすべく、より一層の安全就業推進に取り組んでいます。しかし、令和元年度は過去最多となる633件の事故が発生しました。

その内訳は「濡れた路面で滑る」、「段差につまずく」、「ハチに刺される」等の内容でした。これら発生頻度の高い典型的な事故は、同時に危険予

『テーマ2』

各地区の実情に

合わせたテーマ

作業手順等のルールや、危険予知等、大島の実情にあったもの。

『応募締切』

令和3年2月10日（水）

『標語提出先』

シルバー事務局

（東京しごと財団へ推薦）

*安全就業基準を守り、安全心得十カ条を慣行しましょう。

ボランティア活動



海浜清掃



夏まつり会場清掃

令和2年度11月 事業実績

月	区分	受託件数	就業延日人員	契約金額（単位：円）			
				配分金	材料費	事務費	計
11	公共	47	1,323	7,489,300	404,623	613,938	8,507,861
	民間	41	384	2,151,375	149,305	143,537	2,444,217
	計	88	1,707	9,640,675	553,928	757,475	10,952,078
累計	公共	375	10,738	60,853,935	3,541,353	4,959,550	69,354,838
	民間	386	3,090	16,287,869	1,191,086	1,064,591	18,543,546
	計	761	13,828	77,141,804	4,732,439	6,024,141	87,898,384

11月末会員数 228名 就業実人員 136名 就業率 59.6%

●会員登録状況●

	前年末 会員数	入会 員数	退会 員数	11月末 会員数
男	116	5	13	108
女	115	8	3	120
計	231	13	16	228

あなたの入会を待っています

少しでもお金にゆとりを持ちたいな～ そんなあなた！

あるていど自由になるお金があったら孫にお小遣いをあげたい
もっと旅行にも行きたいな でも先立つものがちょっと…

自分の自由な時間もほしいな～ そんなあなた！

シルバーでの仕事はそんなあなたにぴったりです
あなたの時間の余裕の範囲内でできるのがシルバー人材センターでの仕事です

とにかく家の外に出て何か仕事をしたい！もちろんそんなあなたにも！

シルバーの仕事って、私にもできるのかな？

はい。60 歳以上で働く意欲があり健康な人はだれでも会員になって仕事をするすることができます

私たちはこんな仕事をしています

簡単な仕事では

除草・枝落とし・清掃・不用品処理・ごみ処理・椿林下刈り・イベント準備・湯茶接待

特別な作業では

庭木剪定・伐採・資源ごみ回収・分別作業・あしたば佃煮製造

公共施設、観光施設では

建物清掃（庁舎、医療センター、火山センター、斎場等）・公園清掃・資料館受付と清掃・浜の湯温泉受付と清掃

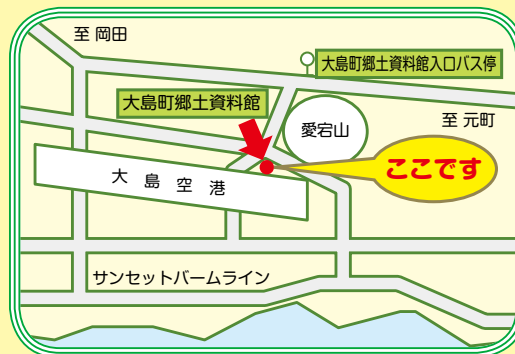
まずは大島町シルバー人材センターに 相談してみましょう

いつでもあなたからの電話を待っています

☎ **04992-2-1777**

直接事務所においでいただいても OK です

大島町元町字地の岡 30-2



編集後記

皆さま、あけましておめでとうございます。
当センターの広報紙「シルバー大島」は、年2回、大島町の全世帯に配布しております。

住民の皆様にご覧いただき、活動していることを知っていただき、またシルバーに入会して会員となり健康で社会貢献につながるための一助となる組織になればと思っています。

昨年はコロナ禍での厳しい年となり、日本国民が楽しみにしていたオリンピックも延期になるなど、明るいニュースがなかなか思い出せない一年ではありましたが、大島町において明るいニュースといえば、「人間国宝」に認定された元町出身の竹本葵太夫（本名：柳瀬信吾さん）ではないでしょうか。

このニュースは大島町民にとって大変喜ばしい出来事でありました。

今後コロナと共に生きていく時代、ウィズコロナ時代を迎え、感染拡大に注意しながらの生活が重要です。

これからインフルエンザの流行も増えてきますが、私達一人ひとりが健康管理への意識をより一層強め、会員・住民の皆さまの一日も早い平穏な日常に戻ることを期待します。